

平成28年度第2回座間市地下水保全連絡協議会 会議録

- 日 時 平成28年7月22日（金） 午後2時00分～午後2時30分
- 場 所 座間市役所 5階 5-7会議室
- 出席者 岩田会長、小俣副会長、室星委員、小林委員、山田委員、渡井委員、神谷委員
- 事務局 環境経済部長、環境政策課長、主事1名、主事補1名
- 公開の可否 公開 一部公開 非公開
- 傍聴者 なし
- 配布資料 なし

1. 環境経済部長あいさつ

2. 議題

(1) 平成28年度以降の地下水保全に係る事業計画について

①事務局説明

事務局より、事業計画について説明しました。

・事務局

まず、前回の協議会で決定した、3次元地下水シミュレーションモデルに係る建議書の提出についてですが、「地下水総合調査に基づく三次元水循環解析モデルの構築について」という建議書を、平成28年5月6日付で、会長名で座間市長に提出させて頂きましたので、ご報告します。

次に、「地下水総合調査委託事業」及び「地下水保全システム事業」の財源として、神奈川県水源環境保全・再生市町村補助金（以下、補助金）を活用できるよう、神奈川県と調整する件についてですが、平成28年7月7日に、事務局が神奈川県水源環境保全課の水質保全グループリーダー及び担当者と打ち合わせを行い、事業内容を説明し、総事業費の約半額の2,500万円程度の補助金を出していただく見込みができましたので、ご報告します。

本事業の総事業費は5年間で約5,200万円と見積もられており、この費用を市の予算、地下水保全対策基金（以下、基金）、補助金の3つの財源で賄っていく予定なのですが、補助金を2,500万円とした場合、残額に対する市の予算、基金からの支出割合を検討する必要があります。5年後の年度末時点での基金残高を試算したところ、基金からの支出割合を総事業費の1/2に設定すると基金残高がマイナスに、1/3に設定すると基金残高が約850万円になるという予想になりますので、総事業費の1/3にあたる約1,700万円を基金から支出し、残りの1,000万円を市の予算から支出していければと考えています。また、基金を取り崩して事業を行う場合

には、本協議会の協議を経なければいけないという規定が、座間市地下水保全対策基金管理・運用要領にありますので、本件について委員の皆様からのご審議を頂ければと考えています。

②質疑

・岩田会長

現在の基金残高が5年間でどのように変化してくのか、詳しく教えて貰えないでしょうか。

・事務局

平成27年度末時点での基金残高は約1,663万円となっています。この基金残高に、協力金・寄付金等から毎年約184万円ずつ積立金が発生すると見積もると、5年後の基金残高は約2,583万円となります。先ほどの試算額は、この額から事業費への支出額を差し引くことで算出しています。また、184万円というのは見込額なので、実際の金額は上下する可能性が当然あります。

・小林委員

現時点での事業計画について、教えて貰えないでしょうか。

・事務局

現時点では、1年目に「水資源管理に必要な領域を含めた水循環モデルの構築」を、2年目に「リニア新幹線の影響調査解析」を、3年目に「水資源管理手法—〈座間市方式〉の検討」を、4年目に「水資源管理業務支援ツールの作成」を、5年目に「水資源管理業務支援ツールの実践と水資源情報の公開手法の検討」を計画しています。

・室星委員

委託業者はいつ決定するのでしょうか。また、5年間、同一業者に委託するのでしょうか。

・事務局

平成29年度予算の事業になりますので、平成29年度の初めに、プロポーザル形式で委託業者の選定を行い、夏を目途に事業をスタートしていければと考えています。委託業者については、会社ごとの独自性を失うことなく、責任を持って事業を実施して貰うために、年度ごとに変更せずに実施をする予定です。

- ・神谷委員

今回の事業で基金から約1,700万円という多額の支出を行ったとして、それ以降の事業に影響等はないのでしょうか。

- ・事務局

平成26、27年度で、基金を2,000万円ほど使用して、座間市地下水保全基本計画の改定を行いましたので、本事業の後には大きな事業はありません。5年後に基金が850万円程度残っていれば、運営に支障は無いと考えています。

- ・会長

基金からの支出割合を総事業費の1/4、1/5とすると、どのような影響が出てくるのでしょうか。

- ・事務局

基金からの支出割合が減れば、当然市の負担額が増えていきます。県の補助金を多く貰うことができれば、市の予算と基金の負担が減りますので、今後も県に対して、補助金の増額を要望してまいります。

- ・会長

まだまだ可変的な要素を多く含んでいる状況であるため、予算の金額が増減することもあると思われませんが、現時点では、基金から総事業費の1/3の支出を行っていくということで、よろしいでしょうか。

- ・全委員

異論なし。

(2) その他

特にありませんでした。